

市議会だより

No. 55

平成30年11月

9月定例会は8月29日から9月19日までの22日間の会期で開催されました。



★ 市議会は、受付の名簿に氏名等を記入するだけで傍聴できます。お気軽にお越しください。

★ 市議会に関する情報は佐伯市のホームページから閲覧できます。

検索

9月定例会の概要

付託議案全て可決

9月定例会は8月29日から9月19日の間で行われ、議案29件（予算7件、予算外22件）、諮問3件、専決処分7件の報告3件が上程されました。

9月4日から7日にかけて、議案

質疑、一般質問を行い、11日に建設経済、教育民生の各常任委員会を、12日に総務常任委員会を開催し、付託議案の審査を行い、13日には、予算特別委員会（大野達也委員長）を開催し、各会計補正予算案を審査しました。

補正予算

どうなる

道の駅

約8億7250万円の追加

平成30年度佐伯市一般会計予算は、歳入歳出それぞれ8億7250万2000円が追加計上されました。既決予算と合わせた一般会計予算総額は、479億6345万9000円となります。

その主なものは、次のとおりです。

観光施設管理事業

1140万8000円

道の駅の指定管理者を選定するための委員報酬。また、道の駅宇目・道の駅かまへの浄化槽の維持管理・駐

車場整備・除草作業等の公共的な部分への経費としての委託料

なぜ？

道の駅各3駅は、平成30年度はいずれも赤字経営となる見込みが高く、運転資金に不足をきたし、経営困難となる可能性が高いことから、現指定管理者から「指定期間終了前に、指定管理を返上したい」との申し出がありました。

市は、現指定管理者が管理を続けることは困難であると判断し、新たな管理者を公募する方針に至りました。しかし、公募期間中、道の駅の閉鎖は考えておらず、新たな管理者と

なる予定の平成31年3月末までは、現指定管理者が経営を継続できるように、「道の駅かまへ」と「道の駅宇目」の管理者が負担している公共的な部分への経費に充てるための委託料が計上されました。

▼予算特別委員会にて、一委員より修正案の提出あり

赤字の経営責任が問われずに、3月まで道の駅を継続させても、世間への体裁でしかない。各施設は一度閉じて平成31年4月リニューアルオープンと告知し、その間に、将来にわたり経営が可能となるよう指定管理者条件等を十分検討するとともに、施設環境整備等を整えた上で、議論すべきであるとの理由から、委託料各500万円、合計1000万円を削除する修正案が提出されました。

活発な質疑答弁が交わされた後、修正案への反対の討論として、道の駅の閉鎖は、観光や地域振興に大きなマイナスになるうえ、人件費に充てるわけでもないとの意見や賛成の討論として、10万円以上の大きな修繕は市が行うと協定書に定めている、3月までやってみてからの結論でも良いとの意見などが出され、採決の結果、修正案に賛成4人、反対18人で、修正案は否決すべきものと決しました。

◆佐伯准看護学院の移転に伴う

整備始まる

地域医療施設整備事業

8152万2000円

医療需要の高まりに対する本市の医療従事者の確保のため、佐伯准看護学院の移転先に、旧豊南高校跡地が活用されます。地域医療施設整備事業として、8152万2000円が予算計上されました。医師会には、建物部分を市が有償で貸付け、移転後の内部補修や管理も、医師会が行っていく考えであるとの方向性が示されました。



▲ 現佐伯准看護学院

ブロック塀等除去支援事業

210万円

道路に面した民間のブロック塀等に対して、除去工事に要する費用の一部を助成

道の駅 やよい



設立 平成12年11月30日

管理運営 株式会社 道の駅やよい

旧弥生町が、地域産業の振興と活性化、地域の交流の場を提供することを目的に設立。国土交通省の道路施設として一体的に整備されたため、敷地面積の8割を国土交通省が所有する。番匠おさかな館ややよいの湯（温浴施設）など他にはない特徴ある道の駅として人気が高い。燃料高騰等で経営が厳しくなっている。

- 役員：阿部邦和佐伯市副市長ほか9名
- 従業員：21名（正職員12名、パート9名）

出資金 3,000万円
（佐伯市2,300万円、大分県農協他4団体700万円）

道の駅とは？

全国1,145か所
2018年4月現在

「道の駅」は、国土交通省と自治体との共同事業として、平成5年からスタート。駐車場、トイレ等の「休憩機能」、道路、観光情報等の「情報提供機能」、地域振興施設の「地域連携機能」の3つの機能に加え、農産物直売等の「地域産業機能」に「防災機能」も加わり、年々進化しています。

佐伯市の道の駅では、ここ数年経営が厳しい状況（下表）が続いているため、第三セクターによる運営から民間企業を含めた「公募」を行い、来年度から新たな指定管理者を指定する予定です。

| 単位：千円 | | H27 | H28 | H29 |
|------------|----|---------|---------|---------|
| 道の駅 やよい | 売上 | 186,855 | 177,675 | 172,916 |
| | 利益 | 9,067 | 404 | -6,004 |
| 道の駅 かまえ | 売上 | 187,196 | 142,655 | 120,387 |
| | 利益 | -6,004 | -13,025 | -12,545 |
| 道の駅 宇目 | 売上 | 92,373 | 86,947 | 92,263 |
| | 利益 | -11,055 | -3,399 | -8,470 |

道の駅 かまえ



設立 平成16年12月2日

管理運営 株式会社
かまえ町総合物産サービス

旧蒲江町が、農林水産業など地場産業の活性化をめざすとともに、都市部との交流人口の拡大と情報交流による観光、文化などの発展、雇用創出の場を目的に設立。海鮮丼など水産物を使ったメニューが人気。近くに競合施設ができるなどで経営的に厳しい状況が続いている。

- 役員：阿部邦和佐伯市副市長ほか4名
- 従業員：23名
（正職員4名、嘱託1名、パート18名）

出資金 2,020万円（佐伯市800万円、大分県漁協他3団体650万円、個人57名570万円）

道の駅 宇目



設立 平成7年2月3日

管理運営 株式会社 うめ

旧宇目町が、都市との交流人口の拡大、地域住民の雇用創出による地域振興を図る目的で設立。宇目地域の観光開発拠点として整備され、猪ラーメンやから揚げ、栗ソフトが人気。隣接する農林産物直売所は経営が別になっている。高速道路の開通により利用者が減り、経営的に厳しい状況が続いている。

- 役員：阿部邦和佐伯市副市長ほか4名
- 従業員：12名（正職員3名、パート9名）

出資金 1,000万円
（佐伯市515万円、株式会社うめ485万円）

総務常任委員会

民間の人材を活用する制度を制定 大手前まちづくり交流館館長（仮称）など

一般職の任期付職員の採用及び給与の特例に関する条例は、地方行政の高度化・専門化が進む中、高度な専門性を備えた民間の人材の活用や期間が限定されるものに対応するため優れた識見を有する者を活用しようとする制度です。

平成32年に開館予定である館長は、専門的な知識経験を有し、一定の期間本市の職員として採用する必要があるとの説明がありました。



▲ 人工高台イメージ図

反対討論（西條隆洋委員）

採用基準も具体的に決まっていないうように見える。他の予定もたっていない。今回は、時期尚早だと思っので反対する。

賛成討論（河野豊委員）

議案質疑や委員会での答弁である程度の疑念は払拭できた。慎重に条例を扱うことを付議して賛成する。



津波避難 人工高台造成工事 標高9メートルの高さ



津波避難人工高台（中川、塩屋、新女島）造成工事の契約の締結をしました。契約金額は、6億1665万6240円。この場所は、避難者が多い中心部であるために広い面積が確保できる高台としました。高台の高さは、6m。標高が3mなので合計9mになります。完成予定は、平成32年3月です。

化学消防ポンプ自動車を購入 約8000万円

現在配備中の化学消防ポンプ自動車を、経年劣化により更新します。従来の車両に比べ、小型、軽量化を図り、化学原液を混合した放水とともに、泡消火剤も放出できるコンプレッサーを積載しています。

その他救助工作車なども更新

救助工作車、高規格救急車、小型動力ポンプ付積載車、林野火災用可搬式散水装置などを更新します。



▲ 化学消防ポンプ自動車



▲ 救助工作車

職員の懲戒

停職期間を1年まで延長

職員の懲戒処分を厳正に対処するために停職期間を、現行1日以上6か月以下から、1日以上12か月以下に改めます。

市は飲酒運転など再発防止策を実施してきたにもかかわらず根絶には至っていないので、厳格化に踏み切る旨の説明がありました。

【議員の表決態度の公表】

※賛否が分かれた議案について掲載しています。※議長（三浦渉）は、通常の過半数議決には表決権がありません。

| 件名 | 議決結果 | 議員氏名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|------|-------|-----|------|-----|-----|-------|------|------|------|------|------|------|-----|--|
| | | 彩輝会 | | | | 志高会 | | | 南風会 | | 自由民主党 | 公明党 | 無所属の会 | | 無会派 | | | | | | | | | | | |
| | | 大野達也 | 本田房代 | 塩月健治 | 清田哲也 | 富松万平 | 濱野芳弘 | 清家好文 | 坪根大吉 | 森三千年 | 飛高彌一郎 | 福嶋勝彦 | 御手洗秀光 | 上田徹 | 矢野幸正 | 河野豊 | 佐藤元 | 浅利美知子 | 後藤勇人 | 西條隆洋 | 井上清三 | 菅さとみ | 高司政文 | 吉良栄三 | 三浦渉 | |
| 議案第87号 佐伯市一般職の任期付職員の採用及び給与の特例に関する条例の制定について | 原可 案決 | 22 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

※無所属の会：佐伯を元気にする無所属の会

建設経済常任委員会

コミュニティバス 大きく再編へ

公共交通機関の再編により、地区説明会の中で出された要望を受け、鶴見地区の路線を追加、蒲江地区ではバス停まで遠いことから地区内まで入れるよう路線を変更、さらに弥生地区では直接病院に行けない事情から2路線を統合する条例改正が行なわれました。

市民への周知方法として、接続場所、料金は、バス停にお知らせを掲示し、時刻表は10月1日の市報で各戸に配布したとのことです。



▲ コミュニティバス

木立地区永野工場用地を取得

佐伯市土地開発公社が所有する土地を企業誘致用の工場用地として、佐伯市が買収するための仮契約の締結が完了しました。

面積は18筆で約6万㎡。買収価格は、約4億2000万円で取得するものです。



▲ 永野工場用地

国道388号一部拡幅

国道388号越田尾工区の改良に伴う公有水面の埋立てに関し、大分県知事から意見を求められたものです。埋立て面積は第1区域から第3区域で約1120㎡。用途は道路用地及び護岸用地で、工事期間は3年間を予定しているとのことです。

教育民生常任委員会

おむつ購入に 年3万6000円を給付!

佐伯市介護保険条例の 一部改正について

本議案は、居宅介護被保険者の一部に対し、新たにおむつ購入費を支給しようとするもので、施行日は9月中を予定して提案されたものです。

質疑 要介護4以上とした根拠は。

答弁 介護保険事業計画等策定委員会で検討し、おむつ給付の必要な方の中で要介護4以上の方が多かったため。

質疑 対象者への周知方法は。

答弁 直接周知するか、担当のケアマネージャーを通じて周知するなど工夫していく。

障がい者等支援基金 受給範囲拡大へ

佐伯市障がい者等支援基金条例に規定する障がい者等の定義に、小児慢性特定疾病児童等を加え範囲を拡大するための議案です。

質疑 この基金は、平成28年の6月定例会で制定されたが、この2年間で何に使用したのか。

答弁 これまで使用していないが、昨年制定した佐伯市障がい者計画の中で今後について検討していくこととなった。

質疑 対象者への周知方法は。

答弁 対象者のリストを保持している南部保健所と協議して、対象者一軒一軒に連絡するように考えている。



一般質問

9月4、5、6、7日

※一般質問の掲載について

一般質問の記事は、議員の責任において、本人が質問・答弁の原稿を作成しています。その内容に相違がないときは原則として原文のまま掲載しています。

なお、一般質問の掲載順序は紙面の都合上、質問順とは異なります。



| 質問者 | 質問の要旨 |
|-------|--|
| 飛高彌一郎 | <ul style="list-style-type: none">・移住・定住対策について・駅前・港地域の活性化について・あいうべ体操の学校での取組について・佐伯市総合運動公園のテニスコートの整備について |
| 本田 房代 | <ul style="list-style-type: none">・ダムの緊急放流について・杉の盗伐について・市歌の普及について |
| 濱野 芳弘 | <ul style="list-style-type: none">・広報について・高齢者福祉について |
| 井上 清三 | <ul style="list-style-type: none">・障がい者政策について・地域おこし協力隊について |
| 佐藤 元 | <ul style="list-style-type: none">・教育委員会について・農業委員会について・指定管理について・企業からの職員派遣について |
| 浅利美知子 | <ul style="list-style-type: none">・災害時用の乳児用液体ミルクの備蓄について・高齢者肺炎球菌ワクチンの取組について・食品ロス削減について |
| 後藤 勇人 | <ul style="list-style-type: none">・持続可能な「さいき」を創るための取組について・いじめの解決について・フレイル（虚弱）予防について |
| 坪根 大吉 | <ul style="list-style-type: none">・地区要望の対応について・公共工事の残土処理について |
| 矢野 幸正 | <ul style="list-style-type: none">・災害・防災対策について・会計年度任用職員制度について |
| 大野 達也 | <ul style="list-style-type: none">・温泉観光について |
| 清家 好文 | <ul style="list-style-type: none">・地域医療について・家庭ごみと事業ごみの分別について |
| 西條 隆洋 | <ul style="list-style-type: none">・災害時における危機管理体制について・地域の環境整備について |
| 富松 万平 | <ul style="list-style-type: none">・新体制における観光行政について |
| 高司 政文 | <ul style="list-style-type: none">・所有者不明土地問題について・農地等に係る太陽光発電設備設置について |
| 河野 豊 | <ul style="list-style-type: none">・文化財政策について |
| 菅 さとみ | <ul style="list-style-type: none">・平和授業の在り方について・マイナンバー制度について |



障がいがある方の「親なき後」の対策について

井上 清三

問

この子を残して死ねない、この子と一緒に死にたいなど、障がいのある子を持つ親の心境。その家族の最も気になる不安は、親が亡くなった後の生活である。親が80歳後半、子どもも高齢という状況。多くの親・家族から不安の声を聞く、障がい者一人残されても、住みなれた地域で安心して暮らせる政策。特に親なき後も一人で安心できる住まいが必要となる。国・県の方向性は、新たな入所施設の設定・建設は厳しい状況であり、市の役割は重要な位置づけとなり、グループホーム等の充実が欠かせない。市の方向性を問う。

答

佐伯市は、「すきっぷ」を核としつつ、相談等に対応するとともに、グループホームや短期入所施設等と十分に連携をとることで、必要とされる居住支援のための機能を確保し、佐伯市障がい者計画（第3次）の中で、グループホームの整備を定めている。国が示す地域生活拠点等の整備方法は、多機能拠点整備型と面的整備型の二つであり、面的整備は達成できている。



敬老会の対象年齢を考える

濱野 芳弘

問

敬老会の対象年齢は、全国的にみるとほとんどが75歳以上となっている。本市も近年の平均寿命や健康寿命から見ると75歳以上で良いのではないかと考える。急には無理だが、5か年計画でならできるが市の考えを問う。

答

満70歳になってもまだ若く、参加してもらえない、対象者が多くて大変だとの声も一部聞くが、各地区の実情に合わせて開催していただきたいながら、敬老会を支援していきたい。



▲ 沖松浦地区敬老会

問

杉の盗伐が全国で発生している。佐伯市には7万8000haを超える森林があり、看過できない。市としての考え、被害の相談や届け出があるか問う。

答

平成29年4月から平成30年1月の間に全国で62件の無断伐採があった。誤伐37件、盗伐の疑いがあるもの11件、状況が不明なもの14件だった。この調査結果を大変重く受け止めている。現在まで佐伯市では、盗伐被害の相談や届け出はない。

問

盗伐防止対策及び啓発について問う。

答

民有林の立木を伐採する場合は、市に届出書を提出しなければならない。届出書を受理した際は、所有者、場所及び所有者の伐採意思を確認する必要がある。そのため所有者に状況報告書を送付し、伐採届が提出されたことを確認してもらっている。これらによって一定のチェック体制ができていると考えている。

啓発については、森林の立木を伐採する際に届け出が必要である旨を市報に掲載している。佐伯地区流域林業活性化センターでも同趣旨のチラシを全戸に配布している。

来年度には森林環境譲与税が創設され、林地台帳も整備される。これにより所有者の管理意識の向上が期待される。



杉の盗伐について

本田 房代



移住・定住対策を積極的に！

飛高 彌一郎

問 地域おこし協力隊はどのような活動をしているのか。

答 現在、佐伯市では、まちづくり推進課や観光課、農林課など本庁に7人、振興局に7人の計14人の隊員を配置している。

協力隊の主な活動内容は、第2回食育活動表彰を受賞した「菌ちゃん野菜づくり」による有機農業の取り組みや身近にある野草を活用した薬膳料理の普及、農作業の労働力不足を補うための「さいき農業サポート人材バンク」の立ち上げ、さらには藤河内渓谷でのトレンギングツアーやフリーペーパーの作成など、隊員がそれぞれの得意分野を生かした地域おこしに取り組んでいる。

問 地域おこし協力隊に市としてどのような評価をしているのか。

答 協力隊に対する評価としては、活動事例で紹介したように隊員のスキルが地域課題と結びついて成果をあげている事例がある一方、地域との関係づくりが上手くできなかった事例や、何を期待されているのか、何をしたらいいのか分からず辞めていった隊員もいるなど課題もある。



▲ 菌ちゃん野菜づくり風景



なくそう食品ロス

浅利 美知子

問 まだ食べられるのに捨てられてしまうことを食品ロスという。政府は廃棄物の削減やリサイクルの推進をめざす計画を策定し、家庭から出る食品ロスを2030年度までに半減させる目標を掲げている、本市は、食品ロス削減にどのように取り組んでいるのかを問う。

答 食育の観点から小中学校における食の指導や菌ちゃん野菜づくり、市民向けには食育講演会や研修会での呼びかけ、また、家庭の生ごみの排出抑制の取り組みを含めた3Rの啓発活動を行っている。

問 宴会などでの食べ残しを減らすために、乾杯後の30分と最後の10分は自分の席に着いて料理を残さず食べましょうという取り組みを「3010運動」という。食のまち佐伯として、この運動を推進し、食品ロスをなくす取り組みを強化すべきと思うが考えを問う。

答 食品ロスの知識や認識を深めるために、広報や講演会などを通じて啓発することが大切と考える。策定中の「第3次佐伯市食育推進計画」に食品ロス削減を明文化する準備をしており、食のまちづくりとして、3010運動をはじめとした取り組みを強化していきたい。



持続可能な「さいき」を創るために！
後藤 勇人

問 「持続可能な開発目標（SDGs）：エスディール・ーズ」に関する学校教育について、政府は2020年度以降の学習指導要領の実施に基づき進めていく方針を出しているが見解を問う。

答 2017年12月の国連総会決議では、持続可能な開発目標（SDGs）達成には、そのための教育「持続可能な開発のための教育（ESD）」が不可欠であるとされている。また、次期学習指導要領は、小学校で平成31年度から、中学校で平成32年度から本格実施されるが、今、一部先行実施の段階で、この前文や総則でも、これからの教育では「持続可能な社会の創り手」の育成が重要であるとされ、各教科等においても、関連する内容が盛り込まれている。このような中、本市において平成28、29年度の2か年にわたり、宇目緑豊中学校が国立教育政策研究所の教育課程研究指定校として指定を受け、その視点に立った教育課程の編成と実践に取り組んできた。

今後は、宇目緑豊中の研究成果を生かし、「持続可能な社会の創り手」に必要とされる資質・能力の育成に向け、持続可能な開発目標（SDGs）の達成とそのための教育の必要性を今まで以上に意識し、教育活動を行いたいと考えている。



公共工事の残土は大丈夫か？
坪根 大吉

問 公共工事の残土の現状を問う。

答 公共工事の残土については、河床掘削の残土も含め公共工事間での流用を行なうことをめざしているが、時期や土質などの条件が整わない限り流用できないことや全体的に受け入れ土量の方が少ない現状であり、それぞれ工事ごとに残土処理場を探し処分している。

今後5年間に佐伯管内で発生する公共工事の残土の量は、平成29年度の国、県、市で工事間での流用を目的とした「建設発生土情報交換シート」による建設発生土は、約5万8000m³である。

「佐伯市公共工事発生残土プロジェクトチーム」では、国、県、市等が事業主体となり施工される公共工事において発生する残土の処理場を確保し、工事の円滑な進捗を図るため、各振興局、建設部、農林水産部、防災局、農業委員会の25名で編成し、国土交通省、佐伯土木事務所との連携を図りながら、情報の共有及び協議を行なっている。現在は、旧佐伯市内及び各振興局管内それぞれに候補地を選定し、法に適合しているか等を調査中である。



災害・防災対策について
矢野 幸正

問 宇目落水地区は、平成16年、17年、そして今回の台風7号により土石流災害が発生した。このような現状を市はどのように受け止めているのか。

答 復旧対応として、県が治山ダム2基の堆積土砂を撤去。10月上旬には法面補強の災害復旧工事の発注を予定している。市としては、落水地区の治山対策の強化を県に働きかけた。

問 近年の局地的な豪雨に対応できるよう木浦鉾山地区などに雨量計を増設する考えはないか。

答 市としては、宇目地域の雨量計の増設について今後、大分県など関係機関と連携し、早期設置に取り組みたい。

問 西山、木浦鉾山、落水地区の緊急避難場所の指定について市の考え方は。

答 緊急避難場所は、既存の公共施設等で施設管理者との合意等で指定している。地域の要望を聞きながら取り組みたい。



おんせん県の
佐伯市として

大野 達也

問 大分県がおんせん県として、プロモーションを進める中で、その恩恵を最も受けている別府・湯布院との連携を進めるべきと考えますが、市の見解は。

答 別府とは、佐伯産黒マグロのPR。湯布院とは、地域イベントの相互交流や広島地域へ誘客を目的とした協同事業を行った。

今後は、「佐伯のイベントポスターや食関連のパンフレット、チラシを別府・湯布院のホテル・旅館及び由布市ツーリストインフォメーションセンターへの掲示」をしていただくよう取り組み、またインバウンドとして、「キャニオニング等の体験型観光を目当てに、佐伯に足を延ばすような施策」を講じ、別府や湯布院とのウインウインの関係を築いていきたいと考えている。



▲ キャニオニング



地域医療について

清家 好文

問 地域医療の課題点をどのように把握しているのか問う。

答 佐伯市の地域医療については、医師をはじめとした医療従事者及び診療科が大分市等へ偏在していることから、市内での医療完結が厳しい状況になってきている。

また、今後も高齢化が進み、医療需要の増加が見込まれ、地域医療体制の整備が課題となっている。広大な面積を有する本市において、救急医療とへき地医療の体制維持を図るためには、医師確保をはじめとした医療提供体制の整備・充実は、喫緊の課題と認識している。

問 今後の取り組みについて、執行部の見解を問う。

答 医師確保については、今後も、医師会と協力して県や大分大学医学部へ佐伯市の現状を訴え、地域枠卒業医師等の確保に向け、粘り強く取り組みたい。地域医療は、市民が安心して生活していく上で欠かすことのできないものであることから、持続可能な地域医療体制を構築するため、医療従事者の確保、市民の健康維持・増進の取り組みなど、地域医療を守るための施策を推進していく。



災害時における
危機管理体制について

西條 隆洋

問 降雨災害時の避難場所について市としてどのような対応をしているのかを問う。

答 指定避難場所とは、地元住民から近くの公施設や公民館等を避難場所としたいという要望のある建物について、耐震性や浸水想定・土砂災害の度合い、施設管理者との合意等が整ったものを市が指定している。

問 台風等で洪水による災害発生が予想される場合の用水路管理体制と防災局との連携について問う。

答 弥生土地改良区が管理・運用している用水路については、台風時には、警報が発令される前から、住宅や田畑に浸水被害が出ないよう、改良区の役員と組合員で河川から水を引くための取水口3か所の開閉操作を現地で行っている。

防災局との連携については、大雨洪水警報等の情報を弥生振興局の防災担当を経由し、改良区に連絡が入る体制になっている。改良区は被害防止のため現場に待機し、降雨の状況や防災局からの情報を勘案しながら河川の状況に応じ排水口の開閉操作をしている。今後とも防災局からの情報を共有することで、土地改良区域内の災害防止に努めていく。



観光業から観光産業へ！

富松 万平

問

観光協会に、大手旅行会社JTBから招へいた職員と業務内容と、新体制の中で見えてきた観光行政の課題と方針を問う。

答

業務執行理事として、新たな観光素材の発掘と磨き上げや、エコツーリズム、スポーツ・文化ツーリズムの商品造成のアドバイス、さらにはクルーズ船の誘致活動に携わっている。先日、九州産業大学のタイの学生を含む30名が来佐し、ブルー・グリーンツーリズム体験を行い、インバウンドの取り組みによる団体誘致も実現した。

新体制での観光行政の課題について一つ目は「地域ブランディングの確立」であり、食と自然をより高品質化、高付加価値化させ、県内外の観光地域との広域連携、広域周遊ルート化を進め誘客増加へとつなげていく。二つ目は「新たな観光協会機能の確立」である。従来の観光宣伝・イベント運営型から、観光客誘致営業活動等の戦略的業務を担える組織へと変革していく。

問

商工会議所・商工会等、観光行政における官と民との意識共有については。

答

観光戦略策定については、観光協会だけでなく商工会議所・商工会を始めとする市内の観光関係民間事業者全体で意識を共有できる観光戦略の策定を進めていく。



▲ 獅子舞 (五丁の市)



▲ グリーンツーリズム体験風景



文化財施策について

河野 豊

問

市が管理している有形文化財の数を問う。

答

市には、国登録有形文化財4件、県指定有形文化財8件、市指定有形文化財137件の合計149件の有形文化財があり、教育委員会が管理している有形文化財は、「三の丸櫓門」「旧坂本家住宅」「毛利家御居間」など14件がある。

問

文化財の保存、継承活動に対してどのような支援を行っているのか問う。

答

佐伯市文化財保護条例の規定に基づき、維持管理、修理等に補助金を交付している。また、神楽、獅子、杖踊りなどの継承活動等に対し、各2万円の補助金を交付している。

問

市が管理している近代化遺産の数を問う。

答

教育委員会が管理しているものはない。

問

長島山、濃霞山、興人に残る戦争遺跡はどのように保存していくのか問う。

答

残存する戦争遺跡については、今後でもできる限り現況のまま保存するため、関係各所と調整を図っていきたい。



教育委員会について

佐藤 元

問 佐伯創生人材育成基金について問う。

答 この基金は、佐伯市の子どもたちが将来、人格も含めて成長していくための事業について使うということであり、教育委員会がその中心的な役割を担っているということは間違いない。その上で小・中学校の義務教育の部分を充実するということが最大の目的である。

問 幼・小・中学校のエアコン導入状況は。

答 佐伯市の管理下に置いている5幼稚園でエアコン設置ができていない。

問 佐伯市が管轄する学校施設整備状況は。

答 学校施設の耐震化、小・中学校のエアコン設置は既に完了しているが、教育環境整備は十分ではないと認識している。

問 過疎地域自立促進計画の中の青山地区公民館の整備について問う。

答 青山地区公民館については、今ある公民館の形や機能をそのまま既存の形で改築するというのではなく、地域からの要望を踏まえ、どういう形で公民館を造ればよいかを、今、検討しているところである。



太陽光発電設備設置に 条例制定を！

高司 政文

問

太陽光発電設備は、地球環境を守る立場から大いに普及すべきと考えるが、第三者が農地や空き地を買い取り、設置する場合は周辺住民とのトラブルになりやすい。これまでのトラブルについて問う。

答

平成25年に周辺住民から太陽光パネルによる反射熱や電磁波による健康被害等を懸念する事案、平成27年に雨天時に泥水が流れ出る、台風により太陽光パネルが飛んでくるなど設備への不安相談、今年に入り耕作放棄地に設備設置をする事案があった。

問

平成29年度から施行されている改正FIT法（電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法）の認定基準では、条例を含む関係法令の遵守がうたわれている。市民とのトラブル等の対応を踏まえ、市の実情に即した条例を制定する考えはないか。

答

再生可能エネルギーの推進も必要だが、自然破壊、人的被害等の対策については先進事例もあり、踏み込んで検討する。



平和授業の 在り方について

菅 さとみ

問

今年度、夏休み期間中8月6日に市内各校で行われた平和授業の内容と、改善すべき点があったか。

答

参観した授業はどれも佐伯市平和教育指導方針に基づいたもので不適切な内容はなかった。

問

平和授業や修学旅行で、原爆被爆者の焼けただれた写真や映像などを見せられて子どもが夜泣きをしたり、夜に1人でトイレに行けなくなった、修学旅行の内容を改めてほしいなどの話を保護者から聞いている。大分県指導方針では「児童生徒の発達の段階を踏まえて教育を行う」とあることから、児童生徒の心に与える影響を考慮すべきではないか。最近では、インターネット、SNS等でもグロテスクな内容の映像や描写の閲覧には注意喚起がされている。これまで長く行われてきた平和授業の内容に不適切な指導が含まれていないか、発達の段階を踏まえた教育が行われているのかを問う。

答

大分県平和教育指導方針に沿った取り組みがなされていると考えている。

ケーブルテレビの未来は？

9月13日、講師に株式会社NHK アイテック九州支社営業部 主管 矢野 誠一氏を招き、「今後のテレビ放送と通信技術について」(ケーブルテレビの現状と課題)をテーマに議員研修会を開催しました。

現 状

- 施設の老朽化に伴いサービスの安定運用が困難
- メーカー保守部品、代替機器の確保が困難
- 現行CATV施設には複数メーカーのシステムが混在しており保守管理がしにくい

課 題

- 運営、維持管理コストの負担増
- 老朽化したケーブルテレビ施設の設備更新
- 初期整備からのサービスの見直しの必要性
- 運営方法の在り方
- 4K8K放送対応

検 討

- 行政施設、行政サービスの見直し
- 民間設備、民間事業者の活用
- 新技術採用による更新費、維持管理費の抑制
- 施設整備費用と運営コストを抑えた将来、持続可能な事業の検討

佐伯市情報ネットワーク(CATV)施設更新予定表

| 地 域 | 本匠 | 鶴見 | 佐伯1期 | 弥生 | 米水津 | 佐伯2期 | 蒲江 | 直川 | 上浦 | 宇目 |
|-----------|----|-----|------|----|-----|------|-----|-----|----|-----|
| 整備年度 | | H11 | | | H12 | | H13 | H14 | | H16 |
| 耐用年数(13年) | | H24 | | | H25 | | H26 | H27 | | H29 |

※「佐伯1期」エリアは、海崎・八幡・西上浦・大入島(H13整備)

「佐伯2期」エリアは、灘・木立・津志河内・下堅田・青山・大越(H13整備)

平成30年7月豪雨災害に対し義援金を贈りました。

平成30年7月に発生した中国・四国地方を中心とした豪雨災害に対し、全国市議会議長会を通じ、義援金を贈りました。

被災者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。一刻も早い復旧・復興を祈っています。

※義援金は全議員の個人負担です。

Softball

延岡市議会との交流ソフトボール大会を開催！

8月25日、弥生球場で交流ソフトボール大会を開催しました。例年は各市議会のチームで交流試合をしていましたが、今年は混合チームを結成しベンチでは和気あいあいの雰囲気の中、最終回に逆転サヨナラとなる展開で幕を閉じました。



未来の産業界を語る！

7月24日、商工三団体と議会との意見交換会が行われました。

席上、佐伯商工会議所の谷川憲一会頭より各産業界の現状と課題について丁寧な説明があり、東九州道「佐伯蒲江間」開通や昨年の台風18号の影響、人口減少や高齢化による将来の展望を不安視されていました。また、佐伯市あまべ商工会の多田茂会長、佐伯市番匠商工会の森竹治一会長から商工会の役割やその概要、地域商工業者が抱える問題、特に全業種的な人手不足、人口減少と購買力の低下、買い物難民の問題等、現状が語られました。



▲ 意見交換会の様子

あれどうなったん？

平成29年の一般質問のその後を追う



質問者 浅利美知子
免許証自主返納支援策への助成は？

3月定例会

平成30年度から、免許返納後に発行する運転経歴証明書の手数料(1,100円)を助成する。

質問者 福嶋勝彦
周辺部活性化のための新規事業は？

12月定例会

平成30年度の新規事業として、「佐伯創生総合対策事業」を創設した。

質問者 大野達也
高校生の文化・スポーツ奨励金を引き上げるべきでは？

12月定例会

新要綱で引き上げ、小・中学校生と同額とした。

質問者 富松万平
地域医療への組織的な体制強化を図るべきでは？

9月定例会

平成30年度、健康増進課に地域医療推進係を設置した。



▲ 学校給食の様子

質問者 高司政文
学校給食を公会計へ移すとともに、全面無償化に取り組む考えは？

9月定例会

無償化は困難。公会計への移行は、具体化に向けて担当職員を配置するなど準備に入っている。

質問者 坪根大吉

災害時の備蓄食料の補助制度は？

6月定例会

平成29年12月に要綱を改正し、自主防災組織の備蓄食料に対し、2分の1(上限あり)の制度を創設した。

質問者 塩月健治

佐伯文化会館閉館後の跡地利用は？

12月定例会

平成30年度から平成31年度にかけて策定する「中心市街地グランドデザイン」の中で検討する。

質問者 本田房代

青山地区公民館の建て替えは？

12月定例会

平成31年度以降の設計・建設に向け、現公民館隣接地を取得するため、9月補正で予算計上する予定。



▲ 現在の青山地区公民館

質問者 上田 徹

総合体育館に空調設備を設置する考えは？

12月定例会

空調設備の方式やグレードによるイニシャルコストやランニングコストを精査しており、予算化に向けた検討を行っている。



▲ オートマの消防車両

質問者 後藤勇人

消防車両におけるオートマ車の導入は？

12月定例会

団員の意見も取り入れ、平成30年から導入する予定。



▲ 総合体育館

質問者 佐藤 元

津波避難タワーの液状化対策は？

3月定例会

池船地区の津波避難タワーは、対策を講じたうえで建設している。

大分県民体育大会 (議員陸上9月9日、議員ソフト9月10日開催)

陸上

議員・教委の部

100m×4リレー **準優勝!!**

記録 56秒98

100m個人 **高司政文議員5位!!**

記録 15秒83

11 陸上競技で
ポイントゲット!

- 監督 塩月 健治
- 第一走者 吉良 栄三
- 第二走者 西條 隆洋
- 第三走者 大野 達也
- 第四走者 清田 哲也
- 控え走者 富松 万平



議員ソフトボール豊後大野市議会にサヨナラ勝ち!!



議員ソフト登録選手

| 打順 | 守備 | 選手氏名 | 背番号 |
|----|----|--------|-----|
| | 監督 | 御手洗 秀光 | 30 |
| 1 | 遊撃 | 清田 哲也 | 10 |
| 2 | 三塁 | 後藤 勇人 | 11 |
| 3 | 中 | 吉良 栄三 | 21 |
| 4 | 左 | 富松 万平 | 13 |
| 5 | 一塁 | 西條 隆洋 | 19 |
| 6 | 二塁 | 飛高 彌一郎 | 16 |
| 7 | 捕手 | 坪根 大吉 | 5 |
| 8 | 右 | 福島 勝彦 | 12 |
| 9 | 投手 | 濱野 芳弘 | 20 |
| | | 菅 さとみ | 2 |
| | | 大野 達也 | 3 |
| | | 河野 豊 | 8 |
| | | 矢野 幸正 | 15 |

※日程の都合上佐伯を含む4チームが優勝となりました。

12月定例会のおしらせ(予定)

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|-------|----|-----------------------|--------------------|---------------|---------------|------|
| 11/25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 12/1 |
| | | | 議運 本会議 (開会日) | | | |
| 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| | | 本会議 (一般質問) | 本会議 (一般質問) | 本会議 (一般質問) | 本会議 (一般質問) | |
| 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| | | 建設経済 教育民生 常任委員会 | 総務 常任委員会 | 予算 特別委員会 | | |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| | | 議運 本会議 (開会日) | | | | |

編集後記

あらためて思う。
今年の夏は、暑かった。

日本列島各地において、猛暑・酷暑に見舞われ、この暑さはいつまで続くのか毎日毎日会う人に、「今日も暑いなあ」と挨拶してた気がする。

秋分の日を境に、涼しくなり、過ごしやすいい日々になりました。

秋は、読書の秋・スポーツの秋・食欲の秋というふうには「○○の秋」と表現されません。

近年の私は、なんといつても運動不足。かなり出てきたお腹を引き締める為、ウォーキングに挑戦中。ただし、無理は禁物。日常生活にプラス10分、千歩程度からですが継続は力と信じて。

皆様も、何か一つ、チャレンジの秋とされてはいかがでしょうか。

広報委員 塩月健治

本会議等の録画映像などは市議会のHPで公開しています。

